

平成 23 年 5 月 18 日

会 員 各 位

一 般 社 団
日 本 歯 学 系 学 会
理 事 長 山 根



日本歯学系学会協議会 第 8 回講演会
「学会間の連携について」のご案内

冠省 平素より、日本歯学系学会協議会の活動にご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

この度、一般社団法人 日本歯学系学会協議会では、平成 23 年度総会の後に「学会間の連携について」と題した講演会を開催する事が決定いたしましたので、ここにご連絡いたします。各学会におかれましては、是非とも会員の皆様にご周知いただきますようお願い申し上げます。多数の方々のご参加をお待ちしております。

早々

記

日本歯学系学会協議会 第 8 回講演会
「学会間の連携について」

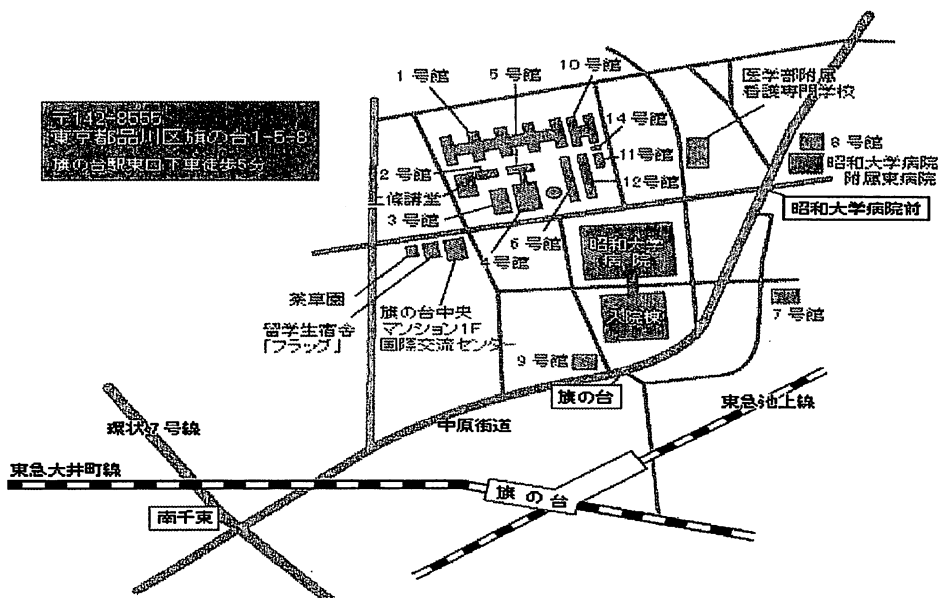
日時：平成 23 年 6 月 30 日（木）14：30－16：00

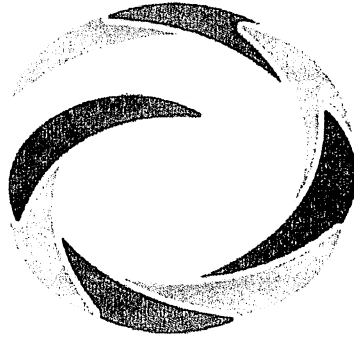
学会間の連携について 寺下 正道

九州歯科大学教授、日本歯学系学会協議会理事

場所：昭和大学旗の台キャンパス 2 号館 3 階第 3 講義室

〒142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8（旗の台駅東口下車徒歩 5 分）





一般社団法人 日本歯学系学会協議会
第8回講演会
「学会間の連携について」

日時：平成23年6月30日（木曜日）14:30-16:00
場所：昭和大学旗の台キャンパス2号館3階第3講義室
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8

プログラム

座長 野口 俊英
日本歯学系学会協議会副理事長
愛知学院大学教授

- 14:30-15:30
学会間の連携について

寺下 正道
日本歯学系学会協議会理事
九州歯科大学教授

- 15:30 -
質疑応答

日本歯学系学会協議会 講演会

「学会間の連携について」

日本歯学系学会協議会

理事 寺下正道

(九州歯科大学 教授)

東日本大震災で亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方に対し、心からお見舞い申し上げますとともに1日も早い復興を願っております。

今回の講演のテーマは、本来シンポジウム形式で多くの方のご意見をお聞きして本協議会の方針を決める検討材料とするものでした。大震災が起こり、担当の佐々木常任理事が被災され、企画が出来なくなりました。そこで、講演会形式にし、私が担当することになりました。従いまして、今回の講演内容は私個人の考えを述べるもので、本協議会を代表するものではありません。ご理解をいただきたいと思います。

本協議会に参加する学会（以下学会）は細分化された領域を代表するものがほとんどで、歯科医学のエビデンスを探求する学術団体です。歯科医療につながるレベルの高い研究をするためには細分化は適しており、これからも必要だと考えます。細分化した学会間の連携には所属する学会の多く（出来ればすべて）が参画出来る目標が必要です。いくつか提案し、検討材料にさせていただければ幸いです。

1) 国民からみれば歯科は1つであり、種々の学術的エビデンスを整理して歯科医療に生かす必要があります。エビデンスを提供するのが学会で、その対象は歯科です。

2) 医学（医療）を2つに分けるとすれば健康医学（あるいは感覚医学、生活医学）と生命医学に分けられると思います。歯科は健康医学に属し、国民のQOLの向上に貢献するためのものです。

3) 今国民が求めているものは健康的な生活であり、不幸にして入院を余儀なくされた場合は少なくとも退院して家族と生活をする、さらには社会復帰です。それためには口腔のクリーニングと摂食機能回復が必要だと思われます。

その他、観点を変えた案を提案し、結論を出すことが容易でないテーマの講演内容と致します。

寺下正道 昭和22年5月14日生 福岡県

昭和48年3月 九州歯科大学 卒業
昭和52年3月 九州歯科大学大学院歯学研究科 修了(歯学博士)
昭和52年4月 九州歯科大学歯科保存学第1講座 助手
昭和54年7月 九州歯科大学歯科保存学第1講座 講師
昭和56年7月 九州歯科大学歯科保存学第1講座 助教授
平成1年4月 九州歯科大学歯科保存学第1講座 教授
平成19年10月 九州歯科大学総合診療学分野 教授

昭和61年4月～昭和62年3月 米国メリーランド大学 留学
平成11年4月～平成15年3月 九州歯科大学附属図書館長
平成21年4月～平成23年3月 日本歯科保存学会理事長
平成22年4月～ 九州歯科大学附属病院長

<所属学会>

日本歯科保存学会
日本歯科理工学会
日本歯内療法学会
日本接着歯学会
日本歯科審美学会
歯科基礎医学会
日本歯科医療管理学会
日本歯科医学教育学会
日本再生歯科医学会 等

<研究テーマ>

- 1、コンポジットレジン・セラミック修復
- 2、歯と修復物との接着
- 3、象牙質/歯髄複合体の再生
- 4、医療コミュニケーションデザイン
- 5、診療システムデザイン

